

第2回 右京区基本計画策定委員会 摘録

日 時 : 平成21年11月6日(金) 午後6時30分～8時30分
場 所 : 右京区役所5階 大会議室
出席委員 : 土井座長・神吉副座長・石田委員・岩澤委員・大西委員・奥田委員・久保委員・高岡委員
中川委員・中沼委員・永橋委員・新妻委員・松井委員・宮崎委員・森委員・山下委員
久保田顧問
欠席委員 : 石川委員・坂口委員・高屋委員・林委員・原委員
事務局 : 高溝区民部長・松葉総務課長・森まちづくり推進課長・山口京北出張所長
土居総務課担当課長補佐・橋本総務課担当・朝倉京都市まちづくりアドバイザー
西原京都市まちづくりアドバイザー・松尾地域計画建築研究所計画部次長
石井地域計画建築研究所技術参与

1 開会

2 報告

「第1回京都市基本計画審議会について」 - 座長より説明 -

3 各部会からの報告

●座長 それでは各部会で御議論いただいた内容を、全委員が共有しようと考えておりますので、各部会から10分程度の御報告をお願いします。

1. 地域活動と安心安全のまちづくり部会 - 委員から報告 - 部会長から補足 -

(報告) 別紙1「地域活動と安心安全のまちづくり部会(報告資料)」参照

(補足) 「目指す方向性」の最初の項目に、「自立して暮らせる環境づくり」というフレーズがあります。「自立」とはどういう意味だろうと、部会で考え、ここでいう「自立」とは、一人で頑張るのということではなく、支え合ってこそその自立であり、そういった支えを大事にしようという話をしました。

もう一点、人づくりとか、防災、防犯、あるいは自然環境の維持、そして福祉、子育て、多くの問題が山積していますが、そういった問題に地域の方々が対応していることが右京の強みなのですが、一方で担い手が不足しています。

そういった意味では、例えば防犯の活動が同時に子育てや、あるいはつながりづくり、自然環境の保全、歩いて買い物ができる場所づくりというように、一石三鳥、一石四鳥の活動を考えようという話をしています。

2. 魅力ある都市環境のまちづくり部会 - 委員から報告 - 部会長から補足

(報告) 別紙2「魅力ある都市環境のまちづくり部会(報告資料)」参照

(補足) 先ほどの報告に、「良いところをほめましょう」「価値観をちょっと転換」「地域ごとの特色を生かす」という話がありました。「価値観をちょっと転換」という話は、例えば交通というものを考えても、以前は交通問題というと自動車の渋滞問題がごく普通に語られていましたが、いま交通問題というと、渋滞も大きな問題ですが、安全に歩けるとか、高齢者が歩いて行ける範囲に何があるのかということが、生活を支えるのにすごく大事だと思います。

そして、環境問題を考えると、少し前は京都議定書で6%のCO2を削減しようという話でしたが、もはや25%削減だということになり、環境問題についても非常に深刻であり、新しい形が求められています。そういう時代の転換点に立っている私たちが、新しい価値観、これから皆が求めるような価値観を右京区の基本計画に盛り込めないかという議論をしています。

また、「右京区は京都市の縁側」という話がありましたが、縁側というのは御存知のように、いろいろな人たちが集まり、内と外の空間で腰をかけながらお話ができるほっこりとした空間なので、そういうものを右

京のもっている空間的な特徴を生かしてできないかということをお話させていただきました。

3. 豊かな自然と歴史文化のまちづくり部会 - 委員から報告 - 部会長から補足 -

(報告) 別紙3「豊かな自然と歴史文化のまちづくり部会(報告資料)」参照

(補足) 印象に残っていることを紹介しますと、右京は観光客の方が何日か京都におられても、1日は右京にというのが定番だろうと思うのですが、本当は右京だけでも、10日とか、1カ月とか滞在しないとわからないぐらいのところだという話がずいぶんありました。

ですから、すでに有名であるからなかなか伝えづらいのですけれども、歴史にしても、自然にしても、真髄を多くの人に理解していただいて、新しいまちづくりにつなげていくことができればいいねという話をしたのが印象に残っています。

●座長 各部会からの御報告について、皆さんの御意見をいただければと思います。

●委員 やはり各部会とも高齢化問題はもちろん、若い人、後継者の不足などもすべて共通していて、京都も今の時代を反映していることがよくわかります。

また、若い人たちが働きにくいという状態が続いているわけですが、これも日本の社会で共通している問題です。そして、若い人たちが住宅の問題などもあって、年頃になると家から出て行くということがあります。これは、まちなかでもそうですが、山間部では林業が成り立たないということで、後継者が出て行くということもあり、国の施策との関係が非常に強いという印象を受けます。ですから、右京区だけで解決できない問題は整理していくべきだと思うのです。

それから、地産地消といいますが、地域にあるものを地域で消費していくような、地域で回転できるような考え方や、それを具体的に進めていくというのが大きな課題ではないかと思います。

●座長 ちょっと不便けれども、その不便が右京の魅力であるということで、「価値観の転換」の話とつながってきますし、高齢者の方が安心して住めるというのは、「助けて」ということを自由にいえるということと、よく似ている気がします。

今までは便利がいい、もっと便利にしようと、社会全体が進んできたと思いますが、たしかに便利なのは大事ですし、快適も大事なのですが、それだけでいいのか、ちょっと立ち止まる、あるいはペースダウンする。それが高齢化問題であったり、環境問題であったりということです。

右京区の皆さんに、私たちはこういうことを考えていて、こういう計画をつくりましたという、問題提起型で出していくことが大事ではないかと、皆様の報告を伺って感じました。

●委員 便利とか快適という話で、不便なエリアも区内にあります。一方で南部や区内の東部は交通の便や生活機能も整備され、すでに便利になっているエリアもあります。そのあたりのバランスをどう扱っていくのか、難しいなという感想。

それから、「豊かな自然と歴史文化のまちづくり」部会の報告のなかで、林業が危機であるという話があり、右京を代表する産業なのですが、「魅力ある都市環境のまちづくり」部会のお話をまとめるときに工業も右京区を代表する産業の一つで、以前の計画の資料で出荷業が市内で右京区が1番というのを見て、すごいなと改めて驚きました。しかし、区内で製造というのはどのあたりなのか、南部のほうかなと思いつつも、今は住宅地だなというイメージもあり、製造業も危機的なのかなと感じました。

●委員 銘木業の仲間と会うと本当に皆さん困っていらっちゃって、今も続けておられる方には非常に切実なお話です。

右京は歴史的な遺産がたくさんあり、まちなみの保存もしておりますので、もう少し京都の材を使って建築物をつくるということができればと考えています。

とくに、北山杉などは一度ダメになると戻すのが本当に大変です。今かろうじて頑張ってもらっていますが、子どもに譲れなくなると終わりですので、危機的な状況であることを認識し、京都として産業とか地域のまちなみの問題に取り組んでいかないと絶対に解決できないと思います。

また、右京区だけでは難しいかもしれませんが、金沢では、今までビルを建てていたところも全部直して元通りの町家に直していく取組が20年前に起こっているのです、京都もそういうことが必要なのではないかなと思っています。

4 次期右京区基本計画における方向性について

「10年後の右京の将来像」をテーマに各委員から発表

●**座長** 次期基本計画に盛り込みたい内容を、皆さんに発表していただきたいと思うのですが、網羅的に発表していただいても、10年間でできることは限られていますので、「あれも、これも」ではなく、「あれか、これか」といったふうに、できるだけ簡潔に発表していただきたいと思います。

●**委員** 子どもや孫などの世代に、先輩たちがやってくれてよかったと思ってもらえるまちづくりを、住民の意識を高めてやっていきたいなと思っています。また、「住んでいてよかった」、「こういうところに住みたい」といわれるまちづくりができればいいなと思っています。

●**委員** 右京には多くの史跡がありますので、それらを右京の活性化に活用することが大事ではないかなと思っています。また、路面電車についても考えるべきだと思っていますが、いろいろな面で京都も大都市ですから、そのようなことをやるには非常に手間がかかるし時間もかかりますが、これは辛抱強くやっていないといけないと思っています。

そして、若い人がまちに出て行くことについても、なぜ出て行くのか、なぜ親と同居できないのかと悩んでいて、どうすればいいのかと日々考えております。

●**委員** 京都らしさなり、右京らしさというのをかなり頑固に出す必要があると思うのです。いろいろ贅沢なことをいっても、どこの都市かわからなくなってしまうのではないかと、そういう意味では何もかも便宜化するような考え方ではなく、部分的には突出が、部分的にはもうやらないというようなメリハリをつけて、京都らしさを維持していくという考え方が必要ではないかなと思うのです。

また、生活道路は日常的に利用するものなので、きっちり整備していくことで、観光客にとっても快適な道路になるのではないかと思います。

●**委員** 自分が住んでいる地域のいいところを皆が理解し自覚して、それを各自が発信できるようなまちづくりができればいいなと思います。親、子ども、配偶者、隣人、皆で地域を愛していけることを目標に、地域の活動ができればいいなと思います。

また、右京で生まれた産物は右京で消化するような、循環型の生活が実現できればと思います。

●**委員** 林業は、いろいろなところが低迷しており、将来があるのかということを心配しています。京北では栗尾のトンネルが平成22年の2月か、3月頃に起工式が行われて、平成26年に完成ということです。長いトンネルを抜けたら素晴らしい京北の景色が現れるまちづくりをしようと、いろいろなことを考えております。

●**委員** 人と人とのつながりが大切だと思っています。

過日、ある学区でガス漏れがあり、小学校、もしくは中学校に避難するものと思っていたのですが、隣の小学校の体育館を住民の避難場所として開放するよう、警察から学校に連絡がありました。小学校には校長も教頭もいましたのですぐ対応はできたのですが、避難してこられる住民の方は隣の学区の方たちで、なぜ隣の小学校に避難するのかと不思議に思っておられました。そして、老若男女、お年寄りでも歩行も困難な方も避難してこられました。

そのとき、私は人のつながりがどれだけ大事かと思ったのは、避難してこられた方がお近くの学区の町内会の方であっても、全表面識がないのです。この一件で、いろいろ勉強をさせてもらい、日頃の人と人との

つながりが大切だと思いました。地域の役員といっても、他学区の人は全然わからないという、情けなさを痛感しました。

●委員 「地域活動と安全安心のまちづくり」部会に入らせていただいておりますので、その視点からお話をさせていただきますと、若い方たちに地域活動を担っていただくには、まず地域がしっかり活性化していく必要があるのではないかという思いがしております。

●委員 私の子どもの時分と比較し、非常に便利になりましたので、道をつくってくれとか車を増やしてくれとかそういうことではなく、逆に私はもっと歩くことを考えたらどうかと思います。

以前、標識に距離を入れたらどうかと思ったことがあるのですが、数字が入っていると歩きやすいのです。そういうことで、2～3年前に「標識に距離が入っていないですね」といったら、「距離は入っている」というのです。見たらたしかに入っているのですが、小さい字で入っているのです。そばに行かないと見えないのです。これでは意味がありません。もっと遠いところから見えるようになったら、歩くと思うのです。

皆が歩いたら安心かなということを考えたりしたのです。

●委員 先ほどの距離の話にもつながるのですが、右京らしさとか右京の魅力という点で、情報の掘り起こし、整備、発信など、情報の扱いにもう少し工夫が必要かなというのが一点。

それから、住みたくなるまちという話が出ていましたけれども、とくに若い人が住みたくなるまちが今後大事かなと思っています。また、快適だから便利だから住みたいということ以外にも、好きだから、気に入ったから右京区に住んでいると思えるような、住みたくなるまち、住み続けたくなるまちになればいいというのが二点目。

最後に、本日の発表のなかでも学校を中心とした取組の話が出ていましたけれども、そういう取組も大切だなと思いました。

●委員 小学校を拠点にしていろいろなことをしており、例えば、子どもたちが給食残渣で生ゴミ堆肥をつくり、その肥料で野菜づくりをして、学芸会で親に売るといったようなことをして、その売ったお金で卒業の図書を贈って出て行くという活動などを行っています。そういう面白い取組も、いろいろと働きかけていけるということを知っていただければと思います。

●委員 いちばん気になるのが高齢者の方のことで、私の家族は厚かましいくらい人にお世話になってます。もちろん、地域の方にやさしくしていただいて「何かあったら報告するからね」といってくださるので安心してお任せしているのですが、私は地域の中でどれくらいのことのできるのか考えると難しいです。

お元気な高齢者の方とは、スポーツを通じて関わっているのですけれども、そうでない方とはなかなか関わる機会がありません。表に出てこられたら挨拶はするのですが、何も頼られない状況なので、ほかの地域の方や隣人の方が、「助けて」とか、「ゴミを出して」とか、そういうことを言いやすい地域ができればいいなと思うとともに、そういうことを心がけていきたいなと思っています。

●委員 いまライフスタイルを見直さないと、私たちの世代がやってきたことはいったい何だったのかと、あとから恨まれる立場になってしまうのではないかと常々考えております。普段の生活のなかで感じていることなのですからけれども、私が子どもだった頃は、CO₂の少ない生活をしていたのですが、それは決して不幸ではなく、結構幸せだったのではないかと考えています。もう少し皆がある一定線上で生活すれば、貧しい人も、富める人も、公平に幸せになれる、そういう秘策がないかと常々考えています。

また、擬似おじいちゃん、擬似おばあちゃんと、擬似孫のふれ合いの場があったらいいね、ということ部会でお話ししたのですけれども、そういうことを考えています。

そして、将来に向けて、子どもたちにはいい環境を残していきたいと思っています。

●委員 SANS A右京は、再開発で素晴らしい庁舎ができたわけですが、こういうこと（基盤整備）はすぐには無理だと思っていますが、幹線道路は防災面からもどうしても整備していただきたいと思っています。

また、お年寄りだけの家庭が増えてまいりましたので、そうした方々をリストアップしたいと思っています。本人が個人情報関係で拒まれるかもしれませんが、何かあったときに連絡先だけでもわかれば、その方々も安心していまの地域にお住まいできるのではないかと考えています。

●委員 不便でいいじゃないとか、価値観のまったく違った見方をいつも教えていただくことが、ここに来ていちばん感激するところです。そういった意味でいうと、資料の「右京区基本計画のポイント」という部分に、「(1) 良いところを“ほめる”を重視」と書いてあるのですけれども、いいところ探しって大事だなと思います。

右京の素敵などころをよく見ましょう、小さなことでも良さを見つけましょうということで受け取っていたのですけれども、今わかったのは、良いところというのは人、皆さんが地域マネジメントのプロでいらっしゃる。とても人を大事にする気風というか雰囲気が右京の強みではないかと改めて思っています。

●副座長 10年間で何をしたら楽しくて、しかも成果が上がるのかと考えながら聞いていました。

実はちょっと思っているのが、「これはやるわよ」というような、先ほどの「擬似おばあちゃん」をやります宣言とか、いまは忙しくて本格的にはできないけれども、数年後にやりたいことを今準備中である宣言とか、今の状況のなかでできる範囲で、「これはやっている」というようなことを宣言して、それで縁ができた方々とまた新しい縁をつくって、数年後に何かが生まれればいいなと思って聞いていました。

一人の人生でも、20代の頃と50代の頃では役割が変わるかもしれないので、いろいろな役割を自分の生活と絡めて、「私はこれをやっています」というのを皆に宣言していくことがいいのかなと思っています。

●座長 地域や人間関係をつなげるうえで、できるだけ挨拶をする、気軽に声を掛けることができる関係をつくっていただけたいなと思います。それは強制するわけではなく、お互いが気づいていく心をつくることが大事だと思います。

基本計画ができれば終わりということではなく、持続するチーム、そういう関係、場をつくっていく。基本計画ができてからがスタートになるわけですから、これから計画を実現し、至らないところは修正し、もっと伸ばす点についてはさらに伸ばしていく。いわば計画を見直していくことも含めて、実現していくために住民の皆さんがまちづくりを語り合う場をつくっていただけたいなと思います。

都市基盤の話では交通の話が出ていて、歩くことも大事、自転車も大事、バスも鉄道も、もちろん車も、幹線道路も大事ですが、地域ごとに環境が違うので、密集している市街地のなかで幹線道路がないという話や、公共交通が非常に不便な地域もあります。そういう地域に普通にバスを走らせるのかというと、それはちょっと実現性がないかもしれませんので、便利ではないかもしれませんが、それでも魅力ある地域がいいということ的前提に、この地域にふさわしい交通体系をどのようにつくってあげればいいのかということについて、皆さんと議論できたらなと感じます。

5 まとめと今後の運営について

●座長 今後、第4回の部会を開催し、素案を取りまとめ、市民の人たち、区民の人たちに公表して、こういう方向性はどうかということに対してご議論をいただき。そういう意見を吸収して最終的には基本計画を策定します。